



拡大ごみ拾い企画での集合写真

任意団体 誇れるふるさとネットワーク

与論島における365日の 海岸清掃活動と大学生との 協働による海域調査

拡大ごみ拾い企画への
延べ参加者数

78人

活動報告会への
延べ参加者数

102人

活動の全体目標に
対する達成度

82%

つり環境ビジョン
助成

2年目

実践

課題

与論島内に60ヶ所あるどの海岸においても、中国や東南アジア諸国から流れるゴミが絶えず漂着し、景観の阻害はもちろん、生態系や漁業に悪影響を与えている。

目標

●自主清掃を定着・普及するためのごみステーションを設置し、ゴミ回収・運搬・処理について、与論町環境課との協働体制を確立する。●海岸漂着ゴミに対する住民主体の取組みに関して、他地域から視察が訪れる。

活動内容

●与論島内60ヶ所の海浜などで毎日ごみ拾いを行い、その様子をSNS上で発信、活動の普及を行った。また、そうした自主活動を島民・観光客に定着、拡充することを目指し、与論町役場との協働により、漂着ごみ回収用の箱を島内に10ヶ設置した。●普及のための事例報告などを島内外で実施するとともに、普及啓発用のパンフレットを作成、配布した。●東京農工大大学院生との協働により、生活排水の水質調査を行った。



自主清掃普及用に設置した
ごみステーション

達成できなかったこと

生活排水の調査を大学院生との協働により実施したが、より詳細な調査を行うためには、さらに専門性の高い有識者や高度な実験装置、設備などが必要になる。

今後の展望

藻場や陸域の植栽エリアなども含め、島全体のデザインを描いた上で、環境保全対策の協議を行っていく。

成果と工夫した ポイント



成果

拡大ごみ拾い企画、活動報告会それぞれの参加者から、後日、「先日海ゴミを拾いました。今までは目についてすらいなかったんですが、結構落ちているんですね」といった声があり、参加後の意識の変化がうかがえた。

工夫

昨年度、単独開催していた報告会を他団体の活動と協働開催することで、新たな層への普及・啓発ができた。